

原 著

結核患者における Life Events および Life Changes の検討

西岡真二・北尾武

国立療養所金沢若松病院

受付 昭和60年4月4日

LIFE EVENTS AND LIFE CHANGES IN THE TUBERCULOUS PATIENTS

Shinji NISHIOKA* and Takeshi KITAO

(Received for publication April 4, 1985)

Date on life changes and life events of tuberculous patients during the 6 months prior to the onset of the disease were gathered.

The average life changes (life events) were 4.6 ± 0.4 S. D..

There were strong relationship between life changes and social lives in males. In females, life changes were related to life events at home.

Key words: Tuberculosis, Life changes, Life events

キーワード: 結核, Life changes, Life events

はじめに

食生活や睡眠などの生活リズムの変化(life changes)や、転職あるいは家族の病気などの人生上の出来事(life events)は、虚血性心疾患¹⁾や高血圧症²⁾をはじめ、各種の疾患の発症に関与するものと考えられている。結核患者の診察の際にも初発、再発にかかわらず、結核発症前に睡眠や食事などの生活リズムに乱れがあった患者が多いことに気づかれる。

弘前大学第一内科の石岡らは胃潰瘍患者に対して life changes, life events の調査表を用いて、胃潰瘍の発症ないし再発前6カ月間の食事や睡眠習慣の変化や身のまわりの出来事について調査し、胃潰瘍の発症、再発との関係を検討した⁴⁾。

著者らは結核患者を対象に石岡らの調査表を用いて生活習慣の変化あるいは仕事上や家庭内の出来事が結核の発症や再発に及ぼす影響を検討した。

対象および方法

対象は、調査期間中(昭和59年1月から12月の1年間)に入院した肺結核患者33名であり、男21名、女12名であり、年齢は21歳から83歳にわたり平均年齢は59歳であった。女性のうち7名が専業主婦、5名は職業を持っている。

質問表は石岡らが胃潰瘍患者に対して用いたのと同じものを利用した。この質問表は健康状態、仕事や家庭、交遊関係、経済などに関する47の質問事項からなっている。調査は著者と患者との面接により、各質問事項に答えもらう方法をとった。(表1)。

結核の発症、再発前の約6カ月間に、調査紙の質問事項に対して『はい』と答た数を合計して、その患者の life events (life changes) 数とした。

結 果

結核患者における life events 数は1から10であった(図1)。life events 数の平均値は男性で 4.8 ± 0.6

* From the Department of Medicine, Kanazawa Wakamatsu Hospital, Kanazawa 920-11 Japan.

表1 石岡らによる life events, life changes 調査表

氏名 _____ (男・女) 歳

私達は職場、学校、家庭等で様々な生活上の出来事を経験します。そしてその事がきっかけとなって病気になったり、今までの病気が悪化したりすることがよくあります。次の項目の内、最近6カ月間の間にあなたが経験した事があれば『はい』、なければ『いいえ』に○をつけてください。

A. 健康

- | | | |
|-------------------------|----|-----|
| 1. 現在の病気以外に病気やケガをした。 | はい | いいえ |
| 2. 食事の時間や回数が不規則になった。 | はい | いいえ |
| 3. 睡眠時間が不規則になった。眠れなかった。 | はい | いいえ |
| 4. アルコールやタバコの好みや量が変わった。 | はい | いいえ |

B. 仕事・学校（学生は11から15のみ）

- | | | |
|--------------------------|----|-----|
| 5. a. 新しい職業に変った。 | はい | いいえ |
| b. 労働や仕事の内容が変わった。出稼ぎにでた。 | はい | いいえ |
| 6. 会社や仕事の事でもめ事や心配事があった。 | はい | いいえ |
| 7. a. 仕事の責任や地位が上がった。 | はい | いいえ |
| b. 仕事の責任や地位が下がった。 | はい | いいえ |
| 8. 退職した。仕事を止めた。 | はい | いいえ |
| 9. 仕事が忙しかった。 | はい | いいえ |
| 10. 仕事から一時離れた。 | はい | いいえ |
| 11. 入学、退学、又は転校した。 | はい | いいえ |
| 12. 学校、勉強、クラブの事で悩みがあった。 | はい | いいえ |
| 13. a. 学校の成績が向上した。 | はい | いいえ |
| b. 学校の成績が低下した。 | はい | いいえ |
| 14. 勉強が忙しかった。 | はい | いいえ |
| 15. 休学した。 | はい | いいえ |

C. 家庭（22から32は既婚者のみ）

- | | | |
|----------------------------|----|-----|
| 16. 家族や肉親の誰かが病気やケガをした。 | はい | いいえ |
| 17. 家族や肉親の誰かが亡くなった。 | はい | いいえ |
| 18. 家族や親戚の間でもめ事があった。 | はい | いいえ |
| 19. 家の用事で忙しかった。 | はい | いいえ |
| 20. 引越または家を新築した。 | はい | いいえ |
| 21. 近所づきあいで問題があった。 | はい | いいえ |
| 22. 結婚した。 | はい | いいえ |
| 23. 離婚した。 | はい | いいえ |
| 24. 夫婦の仲が悪くなった。 | はい | いいえ |
| 25. 夫（妻）と離れて生活しなければならなかった。 | はい | いいえ |
| 26. 子供の事で悩みがあった。 | はい | いいえ |
| 27. 嫁しゅうとの間でもめ事があった。 | はい | いいえ |
| 28. 家族が増えた（子供、養子、同居人など） | はい | いいえ |
| 29. （妻が）外で働き始めた。またはやめた。 | はい | いいえ |
| 30. （妻が）妊娠した。 | はい | いいえ |
| 31. （妻が）流産または人工中絶をした。 | はい | いいえ |
| 32. 子供が家から離れて暮すようになった。 | はい | いいえ |

D. 友人関係等

- | | | |
|----------------------|----|-----|
| 33. 外出の回数等が変わった。 | はい | いいえ |
| 34. 新しく親しい友人ができた。 | はい | いいえ |
| 35. 友人とのつきあいで悩みがあった。 | はい | いいえ |
| 36. 親しい友人が亡くなった。 | はい | いいえ |

(表1 続き)

37. 恋人の事で悩みがあった。	はい	いいえ
38. 性的な悩みがあった。	はい	いいえ
39. 賞をもらった。表彰された。	はい	いいえ
40. 法律違反をした。処罰された。	はい	いいえ
41. 自分の将来に関わる重大な決定をした。	はい	いいえ
E. 経済		
42. 収入の大幅な増加があった。	はい	いいえ
43. 収入の大幅な減少があった。	はい	いいえ
44. 財産が減った。	はい	いいえ
45. 借金やローンの返済に困った。	はい	いいえ
46. 多額の買物をした。	はい	いいえ
47. 他に経験した事があれば記入してください。	はい	いいえ

国立療養所金沢若松病院

S. D. で女性で 4.4 ± 0.6 S. D. であった (図2)。

各質問項目別に検討すると男女とも、結核の発症、再発前に睡眠時間の短縮や不規則性など、睡眠習慣の変化があったと答た例が最も多かった。また食事の回数が減ったり、不規則であったといった食生活の変化が男性では2位、女性では3位であった。これら生活習慣の変化の他に男性では仕事上の多忙、トラブルなど、職場での出来事をあげる場合が多く、女性では家事で多忙であった、家族の病気や死亡、トラブルなど、家庭内の出来事をあげることが多かった (図3)。

食事や睡眠といった生活習慣の変化と、仕事上の出来事ないし家庭内の出来事との関係を見ると男性では睡眠、食事などの生活習慣の変化と仕事上の変化とを同時に『はい』と答える人が多くみられた (図4)。

考 察

個人の生活上の出来事や変化と疾患の発生を関連づけ

た研究は、Holms と Rahe が⁵⁾1967年に、Social Readjustment Rating Scale (SRRS) を発表して以来、外国では数多くの疾患に対して行なわれている。SRRS は43項目からなる life events や life changes の各項目に対して再適応の難易度の観点から点数化したものであり、これによる得点度の高いほど、心身の問題を生じやすいことが示されている。

日本では石岡らが⁴⁾SRRS を日本の実情に合わせてつくった47項目からなる質問表を作成し、胃潰瘍患者を対象に発症ないし再発前6カ月間の各項目の有無に対して調べその合計を life events 数として検討している。それによるとオープン潰瘍群の life events 数が4.5であったのに対し、癒痕期潰瘍群では1.9であり、両者間に有意差がみられたと報告している (図2)。

著者らが今回の調査表を利用して検討した結核患者の life events 数は男女あわせて 4.6 ± 0.4 S. D. であり、石岡らによるオープン潰瘍群のそれとの類似がみら

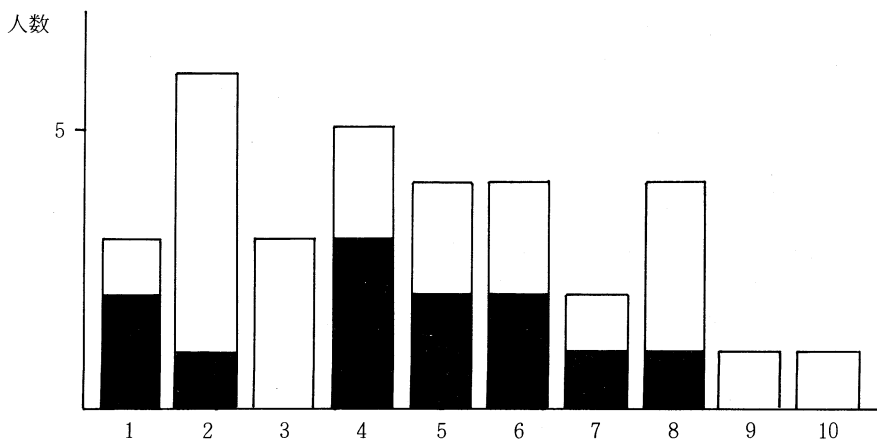


図1 結核患者における life events (life changes) 数

れた。

調査の対象とした期間は結核の発症ないし再発前6カ月間であった。これは石岡らの胃潰瘍患者を対象とした調査期間にならったものである。Raheら⁶⁾肺結核患者の過去10年間の life events 数を調査し、患者群は対象群に比較して発症前2年間の life events 数が有意に多いことを報告している。一方、虚血性心疾患患者を対象にした調査では^{1) 2)}心筋梗塞患者の life events 数が発症前の6カ月間に有意に増加している。今後は調査対象期間に対する検討も必要かと考えている。

個々の life changes や life events の項目別に検討すると、結核患者では男女とも、睡眠習慣や食事習慣など、生活リズムの乱れがみられたものが多く、同時に男性では、仕事上の出来事があったものが多く、女性では家庭内の出来事があったものが多かった。男性では、仕事での多忙や心配事など、仕事上での出来事が生活リズムの変化を惹起していると考えられ、女性では家事の多忙、家族の病気、もめごとなど、家庭内での出来事が生活リズムの変化と関連していると考えられた。これは男性では仕事の場合、女性では家庭が、主な生活の場であることよりきているのであろう。

今回は年齢別や職業別の検討は行なわなかったが、life events の内容が年齢や職業により変化しないような印象をもった。

このような life changes, life events は個体の適応機能とも関わりあって、結核の発症や再発に関連していることが示された。結核の化学療法が進歩している現在、

結核患者の生活指導や栄養も配慮した治療により、再発を更に少なくすることが可能と考える。

今回の調査では最初アンケート形式により、質問紙への患者の自己記入方式をとっていたが、一部の患者には質問内容への理解困難な場合があったため、全ての調査は患者と著者との面接により質問紙の各項目に対して質問する方法をとった。Paykelら⁷⁾ life events 調査の方法論に対しての論文の中で、自己記入法よりも面接法の方が信頼性が高く確実なデータを収集できると述べている。著者らの経験からはそれ以上の利点として患者とのよりよいコンタクトの成立が可能である点をあげたい。患者のプライバシーに立入るような質問をしていくうちに、日常生活習慣や精神的苦悩など、患者のプロフィールをよく把握することができ、患者との意志の疎通性が高まった。結核のように療養期間が長期化する場合、患者との間に十分な疎通性を保っておくことは重要であり、面接法による life events の調査はそのような状態の成立の一助になることがわかった。

結 論

国立療養所金沢若松病院内科に入院した結核患者33名に面接し、石岡らによる life event, life change に関する質問表を用いて結核の発症や再発前6カ月間の出来事、変化に対して調査した。

結核患者の life events 数は、男性で4.8、女性で4.4であった。

発症、再発の前に睡眠や食生活の変化が認められる患

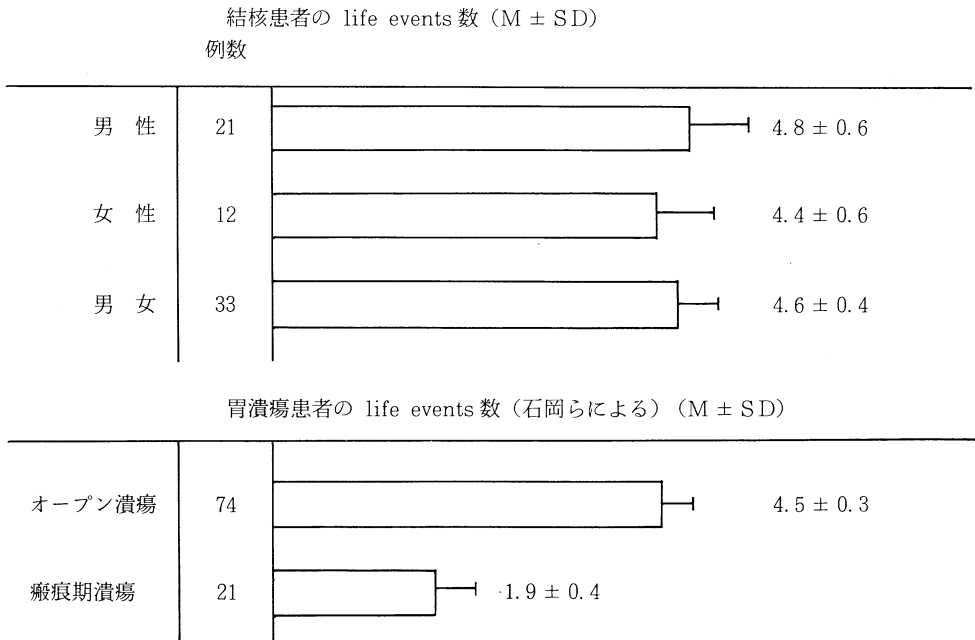


図2 結核患者と胃潰瘍患者の life events (life changes) 数 (M ± SD)

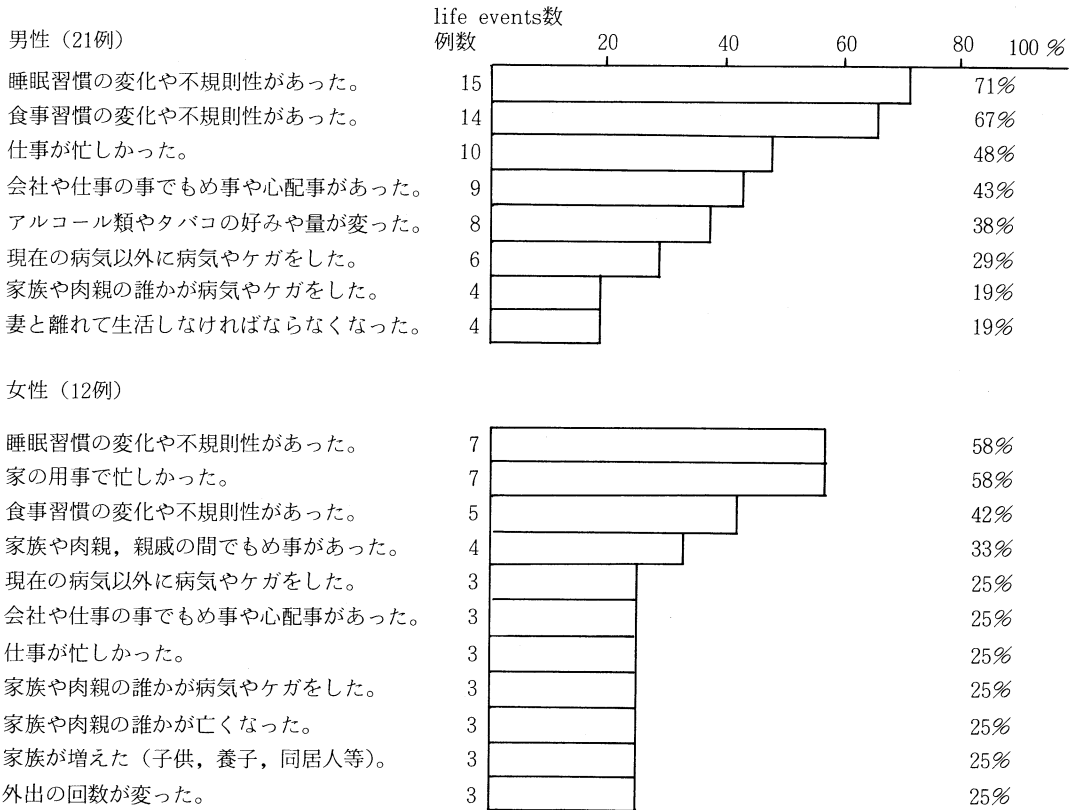


図3 結核患者における life events, life changes の項目別発生頻度

		生活習慣の変化				生活習慣の変化	
		はい	いいえ			はい	いいえ
男性	仕事上	はい	13	いいえ	1	はい	11
		いいえ	7		0	いいえ	9
女性	仕事上	はい	5	いいえ	1	はい	9
		いいえ	5		0	いいえ	1

図4 生活習慣の変化 (life change) と仕事上および家庭内の出来事 (life events) の関係

者が多く、男性では仕事上の出来事が女性では家庭内の出来事が生活リズムの変化に関与していると考えられた。

life changes, life events は個体の適応機能とも関わりあって、結核の発症や再発に関与していることが示唆された。

また面接法による life event 調査が、患者とのよりよいコンタクトの成立に有用であることを述べた。

文 献

- 1) Rahe, R. H., et al. : Subject' recent life changes and coronary heart disease in Finland, *Am J Psychiatry*, 130 : 1222-1226, 1973.
- 2) Rahe, R. H., et al. : Recent life changes, myocardial infarction and abrupt coronary death, *Arch Int Med*, 133 : 221-228, 1974.
- 3) Lal, N., et al. : Life events in hypertensive patients, *J Psychosomat Res*, 26 : 441-445, 1982.
- 4) 石岡 昭他 : Life Events および Life Changes の胃潰瘍の発症あるいは再発に及ぼす影響, *心身医*, 23 : 126-131, 1983.
- 5) Holms, T. H. & Rahe, R. H., : The social readjustment rating scale, *J Psychosomat Res*, 11 : 213-218, 1967.
- 6) Rahe, R. H., et al. : Social stress and illness onset, 8 : 35-44, 1964.
- 7) Paykel, E. S. : Methodological aspects of life events research, *J Psychosomat Res*, 27 : 341-352, 1983.